

# 平成30年度 学校評価集計結果（教職員）

回収日：平成31年1月15日（火） 対象者数：44名（回収率100%）

◇ 判定 ◇ A=3.25以上、B=3.25未満～2.5以上、C=2.5未満～1.75以上、D=1.75未満

◇ 評価 ◇ 1：十分（よい） 2：おおよそ十分 3：やや不十分 4：不十分

重点目標	具体的目標等		評価				平成30年度		平成29年度	
			1	2	3	4	換算平均	判定	換算平均	判定
保護者・地域に信頼される学校	1	奉仕活動による心豊かでたくましい人間性の涵養	14	19	10	0	3.09	B	3.26	A
	2	自然災害等に「そなえる」防災教育の充実	18	21	5	0	3.30	A	3.38	A
	3	学校間交流、地元小中学校への出前授業の実施による連携強化	21	17	5	0	3.37	A	3.46	A
	4	家庭との連携を深め一人ひとりを大切にしたい心のサポート	16	22	4	0	3.29	A	3.08	B
	5	生徒の活動、各学科の取組等を広く情報発信	17	23	3	0	3.33	A	3.33	A
	6	開かれた学校づくりの推進と関係機関との連携強化	12	27	4	0	3.19	B	3.23	B
	7	危機管理マニュアルの見直しと充実	14	23	5	1	3.16	B	3.35	A
基礎学力の向上	8	主体的に授業に望む姿勢・態度の育成	7	22	8	2	2.87	B	2.68	B
	9	生徒の実態に応じた「わかる・力がつく授業」の展開	4	28	7	0	2.92	B	2.89	B
	10	適切な課題等による家庭学習の習慣化	3	13	19	4	2.38	C	2.29	C
	11	朝読書と落ち着いて学習に臨む雰囲気づくり	16	20	4	0	3.30	A	3.32	A
	12	観点別学習評価を踏まえた学習評価の改善	7	24	7	1	2.95	B	2.82	B
基本的な生活規範の醸成の確立と社会	13	生徒指導の徹底（非行の防止、整容指導、挨拶の励行、時間の厳守）	8	25	8	2	2.91	B	2.95	B
	14	HR・生徒会活動・部活動を通して人格形成	12	20	7	2	3.02	B	2.84	B
	15	情報共有を図り、教育相談機能を高め、不登校や退学者の防止	16	23	2	0	3.34	A	3.08	B
	16	いじめやいじめが疑われる行為の早期発見、認知に努め、組織的対応による早期解決	16	23	3	0	3.31	A	2.87	B
	17	安全な学校生活（交通ルール、人命尊重）	19	22	2	0	3.40	A	3.32	A
	18	外部講師招聘による生徒に対する情報モラル講習会の実施	19	21	3	0	3.37	A	3.32	A
	19	5Sの徹底による学習環境づくり	10	20	11	0	2.98	B	3.13	B
進路と意識の早期育成	20	きめ細かい進路指導の展開	15	19	7	0	3.20	B	3.29	A
	21	早期の目標設定による全員の進路実現	21	16	5	0	3.38	A	3.26	A
	22	外部や地域との連携による職業観・勤労観の育成	20	20	2	0	3.43	A	3.39	A
	23	資格取得の充実による目的意識と向上心の育成	14	19	8	1	3.10	B	2.95	B
	24	卒業生の定着状況の把握と活用	13	24	4	0	3.22	B	3.18	B
明るい職場づくり	25	教職員の協働と融和による明るい職場の構築	9	18	13	3	2.77	B	2.65	B
	26	事務室との連携による円滑・適正な校務処理	9	25	7	2	2.95	B	2.98	B
	27	多忙化解消（スクラップ&ビルド）	4	9	21	9	2.19	C	2.25	C
	28	教職員の綱紀保持（コンプライアンス）	17	23	3	0	3.33	A	3.13	B
	29	ノー残業デーの月2回以上の実施	5	14	16	8	2.37	C	—	—
平均							3.08		3.06	

# 平成30年度学校評価結果分析と改善方策（教職員）

岩手県立宮古工業高等学校

1 回収率 100%(44名/44名)

2 総評(全体の傾向)

「地域に信頼される学校」として、PTA、地域の皆様等のご協力とご支援の下、今年度も教育活動の成果をあげることができた。東日本大震災の翌年から続いている交流事業は、4月のマレーシア・アーメダシャー高校から始まり、8月には東京都教育庁による防災キャンプにおいて東京都の高校生との交流も行われた。昨年度復活した鮭の町復興クリーン大作戦を6月に実施し、津軽石小や赤前小、津軽石中、地域住民と協力して津軽石川原の清掃を行った。10月には再建された宮古運動公園陸上競技場において、生徒会の企画により全校生徒が参加して校内体育大会を開催した。また、震災津波から7年以上の歳月が経過し、3月には本校北側に施工されている復興道路や三陸鉄道リアス線が開通する予定となっており、学校周辺の環境整備も着実に進んでいる。

本年度の教職員による学校評価アンケートは、学校経営計画に基づいた質問事項で実施した。全項目の評価平均は4点満点中3.08(昨年度3.06)となった。重点目標に対する分析の概要は、下記のとおりである。

- ・「保護者・地域に信頼される学校」では、7項目中4項目がA判定、3項目がB判定であり、A判定が1項目減少した。「開かれた学校づくり」を推進するため、地域に貢献する積極的なボランティア活動(奉仕活動)が求められている。
  - ・「基礎学力の向上」では、家庭学習の習慣化が昨年度と同様にC判定である。家庭学習を定着させるために、適切な課題の出題や教科間の連携など工夫が必要である。
  - ・「基本的生活習慣の確立と社会規範の醸成」では、昨年度と比較し7項目中5項目でポイントが増加している。特に、いじめ防止に向けた取組がA判定と評価されている。
  - ・「進路意識の早期育成と進路実現」では、3年生へのきめ細かい指導で進路決定率100%を達成している。昨年度と比較すると5項目中4項目のポイントが高くなっており、進学及び公務員試験の成果が評価されている。
  - ・「明るい職場づくり」では、多忙化解消が昨年度のポイントをさらに下回りC判定となっている。2020年度の宮古商業高校との統合に向けた業務も増えることから、教職員の多忙化を減少できるように仕事内容の精査や分担等の改善が必須である。
- 今回の学校評価を踏まえ、生徒一人ひとりの理解を深め、個性や特性等にきめ細かく対応するとともに、その能力の伸長を図る教育を実践することにより、生徒や保護者、地域、関係機関の期待に応えられるよう「開かれた学校づくり」を推進していきたい。

重点目標	具体的目標等	課題	改善方策等
保護者・地域に信頼される学校	1 奉仕活動による心豊かでたくましい人間性の涵養	①鮭の町復興クリーン大作戦の工夫 ②ボランティア活動の取組	↓ 活動内容や活動場所、雨天時等の対応を綿密に計画する。地域に必要とされる奉仕活動を実施し、その取組を広く紹介する。
	2 自然災害等に「そなえる」防災教育の充実	①津波・火災避難訓練の実施 ②防災教育の取組	→ 避難場所までの避難路を定期的に点検し、安全を確認する。学校全体で取組内容を検討し、生徒への周知を徹底する。
	3 学校間交流、地元小中学校への出前授業の実施による連携強化	①学校間交流の在り方 ②津波模型実演出前授業の実施	→ 交流事業の内容を精査し、有意義な活動となるように企画・立案する。小中学校への出前授業について、各学科ごとに計画的に推進する。
	4 家庭との連携を深め一人ひとりを大切にしたい心のサポート	①家庭との情報の共有、生徒理解	↑ 家庭との連携を図り、面談等を通じて生徒一人ひとりの理解を深める。
	5 生徒の活動、各学科の取組等を広く情報発信	①ホームページやツイッター、校報「やまぼうし」等の情報発信	→ 速やかな情報発信を心掛けるとともに、校報等を保護者に確実に届ける方策を検討する。
	6 開かれた学校づくりの推進と関係機関との連携強化	①開かれた学校づくりの推進	→ 学校評価アンケートの分析や学校評議員会の意見を踏まえた改善事項の精査・推進及び関係機関との更なる連携を図る。
	7 危機管理マニュアルの見直しと充実	①復興道路工事に係る通学路の安全確保及び危機管理マニュアルの周知	↓ 生徒・保護者への情報提供と通学路指導を行う。また、危機管理マニュアルの周知のため教職員への研修会等の実施する。
基礎学力の向上	8 主体的に授業に望む姿勢・態度の育成	①授業における目標の明示 ②授業中の活動場面の設定	→ 生徒理解に基づいて、個々の目標を具体的に設定する。グループ活動など生徒の主体性を導き出す授業展開に努める。
	9 生徒の実態に応じた「わかる・力がつく授業」の展開	①生徒個々の能力を把握した授業展開 ②教師の授業力向上に向けた取組	→ 習熟度別学習、ティームティーチング等により学習内容の深化を図る。互見授業・研究授業等を通じ自己研鑽を積み授業力の向上を図る。
	10 適切な課題等による家庭学習の習慣化	①家庭学習の定着	→ 担任、教科、教務部が連携し、生徒の情報を共有するとともに、計画的に課題を出題する。
	11 朝読書と落ち着いて学習に臨む雰囲気づくり	①朝読書の意義の周知と環境づくり	→ 朝読書の意義を生徒に理解させ、落ち着いた環境で実施する。
	12 観点別学習評価を踏まえた学習評価の改善	①評価について職員の意識統一	→ 定期的に評価の点検と改善を図る。
基本的生活習慣の醸成と社会規範の確立	13 生徒指導の徹底(非行の防止、整容指導、挨拶の励行、時間の厳守)	①整容指導 ②挨拶の励行	→ 教職員の共通理解の下、一貫した指導を継続する。教職員からも積極的な挨拶を心掛ける。
	14 HR・生徒会活動・部活動を通して人格形成	①部活動の活発化	→ 生徒が部活動の意義を理解し、自分の役割を自覚して積極的に参加するよう指導・支援する。
	15 情報共有を図り、教育相談機能を高め、不登校や退学者の防止	①担任やスクールカウンセラーと連携した対応	↑ 生徒個々の悩みや課題を早期に発見し、スクールカウンセラーや関連機関との連携を図り、教職員間で情報交換を行い共通理解を図る。
	16 いじめやいじめが疑われる行為の早期発見、認知に努め、組織的対応による早期解決	①いじめ対応への体制づくり	↑ 事案発生後、生徒への指導や相談など組織的支援体制を確立する。
	17 安全な学校生活(交通ルール、人命尊重)	①交通安全指導の徹底 ②全教職員での指導	→ 学校、家庭、地域が連携した指導体制を維持発展させる。教職員が情報を共有し、統一した指導体制を確立する。
	18 外部講師招聘による生徒に対する情報モラル講習会の実施	①講演内容の検討及び授業における指導	→ 外部講師へ本校の実態に即した講演内容を依頼する。また、情報技術基礎等の授業においても情報モラル教育を実施する。
進路意識の早期育成と進	19 5Sの徹底による学習環境づくり	①5Sの周知	→ 教職員の指導下、毎日の清掃とHRの整理整頓を確実に実行する。
	20 きめ細かい進路指導の展開	①進学者・公務員希望者に対する指導体制の充実	↓ 進学・公務員希望者に対し、課外授業や添削指導等きめ細かいサポートを継続する。
	21 早期の目標設定による全員の進路実現	①早期の進路意識の涵養に向けた指導	→ 家庭との連携を図りながら、個別指導を充実させる。就職動向、地域のニーズ等を的確に分析し、情報提供を行う。
	22 外部や地域との連携による職業観・勤労観の育成	①継続的連携の必要性	→ 宮古市産業支援センター、宮古・下閉伊モノづくりネットワーク等の外部講師を有効に活用し、生徒の進路意識の向上・育成に努める。
	23 資格取得の充実による目的意識と向上心の育成	①合格率の向上 ②資格取得に対する意識の低さ	→ 指導方法の工夫や講習会等の充実を図る。資格の重要性、必要性を理解させる。
明るい職場づくり	24 卒業生の定着状況の把握と活用	①早期離職対策と情報の共有	→ 卒業後も定期的に本人や企業と連絡を取り合って情報を収集するとともに、原因を分析する。また、情報を教職員間で共有する。
	25 教職員の協働と融和による明るい職場の構築	①適切な業務分担 ②業務に対する教職員の共通理解	→ 業務を適切に分担するとともに進捗状況を的確に見極める。普段から教職員間でのコミュニケーションを心掛ける。
	26 事務室との連携による円滑・適正な校務処理	①各校務処理における共通理解	→ 引き続き連携を密にし、共通理解を得ながら進める。
	27 多忙化解消(スクラップ&ビルド)	①仕事量の増加 ②スクラップすべき仕事の見直し	→ 校務分掌等において適正な作業の分担を行う。業務の効率化を図るとともに、不必要なものについては抜本的な見直しを行う。
	28 教職員の綱紀保持(コンプライアンス)	①コンプライアンスの取組	↑ 職員会議や朝会等において、適宜の情報提供と教職員への注意喚起を図る。また、コンプライアンスの発表内容の工夫を施す。
29 ノー残業デーの月2回以上の実施	①ノー残業デーの啓発	→ 機会をとらえて、定期的に呼びかけを実施する。	